

山行報告書

受 付 No.	4 7	登山地・ルート	光岳
目 的	歩行トレーニング&100名山ハント		
メンバー	大山		
行動記録			

月 日 曜	天候	ポイント地点・所要タイム
5・15・土	晴れ	浜松＝易老渡①～面平～易老岳～光岳～易老岳～易老渡②＝浜松 5:52 7:15 9:38 13:07 15:35 17:44
・ ・		

記事 目的の成否・状況・問題点(反省)・メンバーの状況・ルートの注意点・自然状況

【駐車場～易老岳】

支度にかかる時間がかり、予定より1時間遅れで登山口に到着。駐車場には他に車3台。出発の支度をしてる人と、もう気配のない車とあった。最初から急斜面をジグザグに登る。尾根にのり向きを変えると傾斜が落ちた。ヒルがいるぞと脅されてきたものの、地面は乾いていて本当にいるのかなと思いつつ、面平までは休憩したくなかったけど手前で休憩。その先、下山してくる単独の男性とすれ違い、2,100mくらいから雪が現れ、易老岳の直下はべったり雪がついていた。

【易老岳～光岳】

易老岳で山頂標識を探すが見つけれないまま一旦下る。そこからガレまでは、尾根上の雪はずいぶん解けていた。ガレから先、再び雪が出てくる。同時にルートも不明瞭になる。地図と磁石で方向を定めるも、行く手の尾根上は藪、斜面もとてもルートとは思えず一旦戻り、目印を探す。易老岳から先、テープはほとんどない。ルートロスで敗退なんて格好悪いなあと思いながらしばらく行ったりきたりして、やっぱり最初に定めた方向へ進む。尾根から離れないように少し下の斜面を枝をかきわけながら進むと、雪面にうっすらと靴の跡を見てホッとする。イザルガ岳への登りは、地図上の夏道は谷を登るようになっていたが、残雪期とはいえなんとなく気持ち悪くて、かといってイザルガ岳から伸びる尾根は高く、尾根上は藪っぽいし、斜面は急だし、谷の右側の尾根上を登る。途中、軌道修正しながら、やがて易老沢に視界が開け、稜線に向けてトラバースするが、稜線に出ても尾根が広すぎて光岳がどこにあるのかわからない。とにかく高いほうへ進んで行くと少し下に光小屋が見え、光小屋の延長線上にトレースがあった。そこからはトレースに導かれて光岳に到達。思ったより遠く、リミットにしていた13時を若干オーバーしてしまった。

【光岳～駐車場】

下山は稜線上から眺め、ルートを定めて効率よく下る。行きに迷った辺りまで来ると人の声がした。男性3人組が、ルートを求めて迷走していた。テント装備だがもう14時半すぎ。こちらも他人のことは言えないのでお互い様。こちらにテープがあると教え、挨拶を交わして行き違う。そこから先の易老岳への登り返しが思ったよりきつく、易老岳からの下りは、下るうちに靴の中で足先が詰まり、マメもでき、痛みを耐えながらヨレヨレで駐車場へと戻った。

【温泉&成果】

温泉はかぐらの湯。南アルプスの100名山はこれでやっと全部クリア。

紙面不足の場合は裏面へ

報告者	大山	受付	平成	年	月	日	受付者	
-----	----	----	----	---	---	---	-----	--



易老岳直下



ガレの辺り

少しの距離で雪の残り方が全然ちがった



↑ 稜線へのトラバース

もそっとした光岳のピーク ↓



山頂直下から見た聖岳と上河内岳



もそっとした山頂には特に展望はなかった